

やまびこ

(公社)愛媛県栄養士会病院栄養士協議会編集

会 長 挨拶

(公社)愛媛県栄養士会病院栄養士協議会
会長 利光久美子

秋暑から秋冷と急に肌寒さを感じるようになりましたが、皆様お変わりございませんか。平素より病院協議会の運営に、ご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

病院栄養士を取り巻く環境も変わりつつある中で、平成26年度を目途に、日本栄養士会研修制度においても、大きく見直しが行われることになりました。従来の生涯学習制度が改められ、卒後から生涯にわたる教育体制へと検討が進められています。自己の日常業務に必要な学習のみならず、社会から求められている能力を十分備えるための生涯職能開発（CPD）として新たな研修体制の構築を図るものです。生涯教育の単位制度を基本として、キャリア形成を支援するためにスキルの到達度に応じた認定制度を組み入れ、これらの資格には認定期間を設けて、スキルの向上と質の担保を継続的に行っていくものです。認定管理栄養士・栄養士として、臨床栄養、福祉、学校栄養、公衆衛生、給食管理、地域栄養などの専門領域のジェネラリストを目指すと共に、特定分野管理栄養士・栄養士（特定分野の専門性の強化）トッパーリーダー（仮称）、スペシャリスト（専門管理栄養士：仮称）の認定資格を設立し、卒後教育ならびに生涯職能開発に直結した研修を行うことを目的としています。その仕組みづくりを、病院栄養士協議会としても日本栄養士会に準拠し現在計画しています。会員の皆様方が求める研鑽とサポート体制の構築のためにも、多くの方々のご意見とご要望が必要です。研修会参加時又は、身近な役員へ、ご意向をお伝え頂けますと幸いです。

病院栄養士協議会役員一同、会員の皆様方のますますのご活躍を心より祈念致しております。



参 加 報 告

第 34 回愛媛ブルーランドサマーキャンプに参加して

誓生会 松風病院 加藤 香

現在、私は精神科の退院支援として、糖尿病の患者さんと関わっています。糖尿病についてもっと身近なものにしたかったため、参加をきめました。しかし、初めての参加で不安でした。事前の打ち合わせ会では多職種が集まり、愛媛大学大学院医科系研究科小児科学講座の濱田先生の小児糖尿病の講義と練習問題としてキャンプを想定して、低血糖になった理由や対処方法を考えました。その後、キャンパーの皆さんの目標と注意点を聞き、キャンプに備えました。

8月8日から3泊4日の日程で、今年のキャンプ地はマリンパーク新居浜にて開催されました。マリンパーク新居浜は東浜にあり、海水浴場・キャンプ場・室内宿泊施設があり、キャンプ地としてはお勧めの場所です。

私が参加したのは2日目で、ダンス・海水浴・バーベキューと内容が盛りだくさんでした。栄養士は、献立の材料や単位を書き出し、主食を1単位、2単位と盛り付け、食事前に皆さんの前で書き出したものを読み上げます。食後に自分が食べた量を表に分け、単位計算したものを栄養士が評価しました。キャンパーは、表分けもでき、しっかり野菜もとれていたので大きな花丸をプレゼントしました。夕食のバーベキューは、肉や野菜を串に刺し、フルーツ・おにぎり・サラダにも別の色の串をさし、最後に串の本数で単位計算ができるようになっていて、わかりやすい方法でとても感動しました。

キャンパーの皆さんは血糖コントロールのために、1日数回血糖値を測定し、食事量・内容・運動量でインスリン量を調整して毎日大変ですが、心良く我々を受け入れてくれました。自分でインスリンを打てるようになった時の笑顔、朝食を少ししか食べられなかったが、昼食は完食でき、皆にほめてもらった時の笑顔、リズムにあわせて軽快に踊るヒップホップダンスの時のバシッと決まったきめポーズや自身の子供と小さい時によく一緒にしたキャッチボールをキャンパーの皆さんとしたことは、忘れられない思い出になりました。

初めて体験したヒップホップダンスや100人分のバーベキューの準備、栄養士同士の情報交換、いろいろな体験が出来ました。キャンパーの皆さんをサポートする一員になれたことやキャンプに参加できたことを光栄に思います。是非皆さん参加してみてください。

いっぱい元気ももらえます。



第34回愛媛ブルーランドサマーキャンプスケジュール



	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
8/8 木		集合 出発		新居浜 到着		開会式	試験	グループタイム					レクリエーション	ミーティング				
				血糖昼食		血糖						血糖夕食	血糖	入浴		血糖就寝		
8/9 金	ラジオ 体操	運動のツボ		お口の勉強		バーベキュー		ミーティング					花火					
	起床血糖朝食	血糖		血糖昼食		血糖						血糖夕食	血糖	入浴		血糖就寝		
8/10 土	ラジオ 体操	体験談		エコハイキング		大演芸大会準備		大演芸大会					ミーティング					
	起床血糖朝食	血糖		血糖昼食		血糖						血糖夕食	血糖	入浴		血糖就寝		
8/11 日	ラジオ 体操	試験解説		閉会式		出発		解散式					反省会					
	起床血糖朝食	血糖		スケッチ文集		血糖昼食		血糖										

学会発表紹介 《第 60 回日本栄養改善学会学術総会》

病院における管理栄養士数による医療効果、医療安全及び患者への影響調査

藤井文子¹⁾、中川幸恵²⁾、渡辺啓子³⁾、西村一弘⁴⁾、原純也⁵⁾、米代 武司⁶⁾、石川祐一⁷⁾

¹⁾ 市立宇和島病院、²⁾ 札幌社会保険総合病院、³⁾ 公立学校共済組合九州中央病院、⁴⁾ 社会福祉法人緑風会緑風荘病院、⁵⁾ 武蔵野赤十字病院、⁶⁾ 北海道大学 大学院 医学研究科 解剖学講座 組織細胞学分野、⁷⁾ (株) 日立製作所 日立総合病院

【目的】

(公社) 日本栄養士会医療事業部では、全国の病院を対象に、2年に一度「栄養部門実態調査」を実施している。これまでの結果から管理栄養士の業務内容や人員数のバラツキが、チーム医療への参画数や入院患者に提供する医療サービスへも影響を及ぼすことが示唆された。今回我々は適正な医療を提供するために適正な管理栄養士の配置数の検証を目的とした調査を行ったので報告する。

【方法】

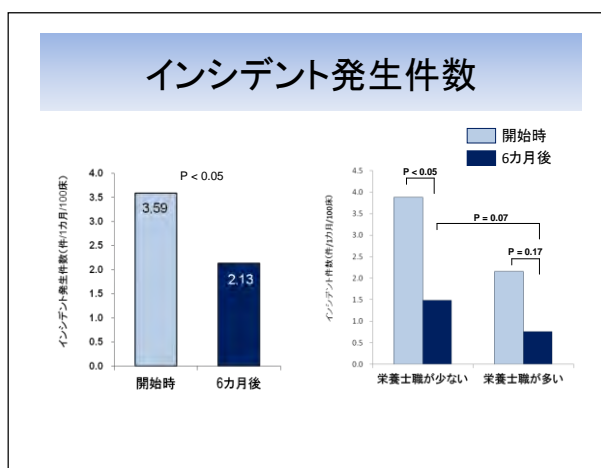
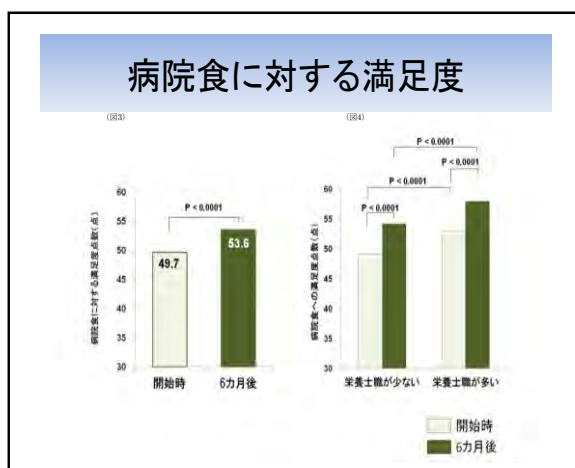
対象施設は平成23年度厚生労働省の行うチーム医療実証事業に参加する施設とし、「医療効果」、「医療安全」、「患者満足度の変化」に関するアンケート調査を依頼し集計・解析した。アンケート内容は、施設の基礎調査を管理栄養士に、満足度調査を患者にて記載してもらった。なお解析は、調査開始時と6ヵ月後の各指標を用い行った。また管理栄養士・栄養士数の多少で2群に分け、群間比較を行った。

【結果】

開始時では36施設、患者3106名から、6ヵ月後では30施設、患者2633名から回答を得た。チーム医療開始時と6ヵ月後の比較では、各指標において改善がみられた。特にインシデント発生件数は有意に減少した。病院食に対する満足度は、すべての項目で有意に上昇した。さらに管理栄養士・栄養士数の多少の比較では、病院食に対する満足度、栄養管理・指導に対する信頼度、及び喫食率などで、栄養士数が多い施設のほうが、有意に評価が高かった。特に、3人/100床以上の管理栄養士がいる施設では、管理栄養士への信頼度、食事の満足度、喫食率が高く、インシデント数は少ない傾向であることがわかった。

【結論】

管理栄養士に対する信頼度は医療の安心につながり、病院食に対する満足度や喫食率が上昇することは栄養状態に反映され、栄養状態の改善・維持は良好な治療効果につながる事が考えられる。適正な管理栄養士体制(3人/100床)を整備することで、食事に関する医療の質の向上が図られることが示唆された。



研修会報告

栄養マネジメント実践型研修会

平成 26 年度より診療報酬で有床診療所に管理栄養士の設置義務が予定されています。(現在移行期間中) 決定すれば管理栄養士の就職先が拡大し、地位の向上につながります。しかしそれに伴い、社会人としての管理栄養士責任も増してきます。責任ある仕事を提供するためのすぐ使える研修会です。

今から就職する人、現在就職して間もない人、
もっと勉強したい人、お友達もお誘い合わせのうえ、ぜひご参加くださいね！
ということで、

平成 25 年 10 月 12 日 (土) に愛媛大学医学部附属病院において、今日からできる栄養アセスメント「栄養マネジメント実践型研修会」を開催し、92 名 (会員 78 名、会員外 14 名) の方たちが参加されました。

今回は 1 月・8 月に続き 3 回目の研修会となり、午前中の内容は有床診療所で使用されている紙カルテから、栄養の情報をどのように収集するのか、どのようにして問題点を抽出・選択し、目標を立てるのかを勉強しました。午後からは午前中の講義をふまえて、高齢者の栄養アセスメントとメタボリックシンドロームの栄養アセスメントの症例検討を行いながら栄養管理計画書を作成しました。

みなさん、熱心に聞き入ったり、書き込んだりと研修をされました。

【研修後のアンケート集計から】

- ・カルテ症例を使った説明が具体的で参考になった。
- ・段階を追った説明で分かりやすかった。
- ・実際に計画書を作成することで理解しやすく、説明も聞きやすかった。
- ・栄養評価は数値だけにとらわれず、今までと現状をきちんと把握しなくてはいけない事が勉強になった。

などなどの意見が多数でありました。その他の意見としては、

- ・難しかったが、今後も参加したい。
- ・病態栄養の勉強がしたい。
- ・再評価について講義を受けたい。

などの意見もあり、参加された方々の病態栄養に対する積極的な熱意が伝わってきました。

研修会直後には何人もの方が、個別の質問をするために集まってこられ、開催したスタッフもうれしい悲鳴をあげました。

今後も皆様のご期待に沿った研修会の開催を予定しております。ポスターや HP でご案内はいたしますが、各自でご確認下さい。

文責 有床診療所担当 濱田千鶴

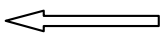


平成 25 年 10 月 12 日 (土)
栄養マネジメント実践型研修会

有床診療所における管理栄養士設置 — 今後の動向 —

【平成 24 年度診療報酬改定に向けての検討 一部抜粋】（平成 26 年度まで経過措置）

〈一般病棟入院基本料の見直し〉

1. 亜急性期入院医療管理料等の見直し医療提供体制が十分ではなく、医療機関の機能分化を進めることが困難な地域に配慮した評価
2. 特殊疾患病棟や障害者施設等から療養病棟に転換した場合に対する経過措置
3. 診療報酬点数表における簡素化  〈直接、管理栄養士に関わる事〉
 - ① 栄養管理実施加算と褥瘡患者管理加算の包括
 - ② 入院基本料等加算の簡素化
4. 医療機関における褥瘡の発生等

【平成 26 年度から診療報酬点数改定予定】現状

愛媛県医師会への管理栄養士設置状況アンケート実施(平成 25 年 5 月現在 回答率 33%)

有床診療所の 管理栄養士配置状況 約 30% (平成 25 年 7 月現在 約 19%全国)

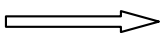
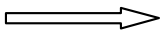
- ・病院は 常勤配置
- ・有床診療所は 非常勤配置 可

有床診療所の入院患者は高齢者の割合が高く、栄養管理が必要な患者も含まれる。包括から除外されたとしても、有床診療所以外の医療機関や栄養士会等との地域連携で栄養管理の検討が必要

【有床診療所・病院の管理栄養士依頼・紹介状況】

(平成 24 年 12 月～平成 25 年 9 月 30 日 現在)

管理栄養士募集・依頼件数

- | | | | | |
|--------|------|---|-----|------|
| ・有床診療所 | 13 件 |  | 設置済 | 11 件 |
| ・病 院 | 3 件 |  | 設置済 | 2 件 |

緊急募集中! 紹介がまだの施設は

今治地区 常勤・非常勤 管理栄養士 (各 1 名)

久万高原 非常勤 管理栄養士 (1 名)

【管理栄養士会員数】 (公社) 愛媛県栄養士会 病院協議会

- ・ 西条支部 88 名
- ・ 今治支部 56 名
- ・ 松山支部 174 名
- ・ 八幡浜支部 45 名 405 名 (平成 25 年度 10 月現在)
- ・ 宇和島支部 42 名 〈栄養士会 会員数 895 名〉

- ※ 有床診療所に管理栄養士設置が実現すると、愛媛県栄養士会の病院栄養士協議会の会員が増えることにつながります。

栄養士法

【栄養士とは】

都道府県知事の免許を受けて、栄養士の名称を用いて栄養の指導に従事することを業とする者

【管理栄養士とは】

厚生労働大臣の許可を受けて、管理栄養士の名称を用いて、**傷病者に対する療養**のため必要な栄養の指導、個人の身体の状況、栄養状態等に応じた高度の専門的知識及び技術を要する健康の保持増進のための栄養の指導並びに特定多数人に対して継続的に食事を供給する施設における利用者の身体の状況、栄養状態、利用の状況等に応じた**特別の配慮を必要とする給食管理**及びこれらの施設に対する栄養改善上必要な指導等を行うことを業とする者。



管理栄養士は傷病者に対して栄養指導を行ったり、個々人に特別な栄養管理をすることを求められています。

【卒後教育（生涯学習）】平成 26 年度より

- 基本研修（30 単位） 医療職としての教育が想定
 - 医療協議会が中心に実施
- 実務者研修（30 単位、臨床栄養は 40 単位）
 - 各協議会が検討
- インターンシップの実施
 - ※ **医療の知識が基本**・・・病態の勉強を続けていくことが大切。

【今 後】

- 有床診療所管理栄養士育成研修会の実施
 - 系統立てた内容で、卒後教育と共に開催予定
- 有床診療所で勤務する管理栄養士に対する栄養士会としてのフォロー の実施
- 医師会との連携を行っていく。

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食特別委員会

(第19回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術集会で発表)

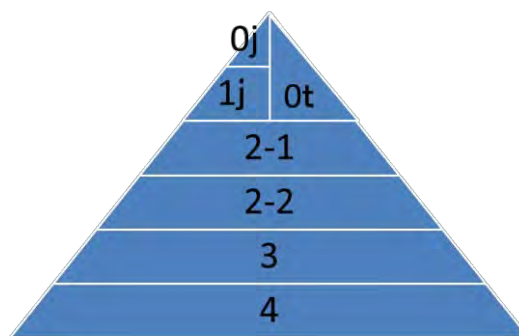
「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013」が完成いたしました。
http://www.jsdr.or.jp/doc/doc_manual1.html 左記ホームページで確認下さい。

本文目次

- I. 概説・総論
- II. 学会分類2013（食事）
- III. 学会分類2013（とろみ）
- IV. Q&A

別紙

- 早見表 学会分類2013（食事）早見表
- 学会分類2013（とろみ）早見表



学会分類2013（食事早見表）コード図

I. 概説・総論

1. 名称

名称は、「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013」とし、以下本文では、略称として、「学会分類2013」と表記する。学会分類2013は、食事の分類およびとろみの分類を示したもので、それぞれ学会分類2013（食事）、学会分類2013（とろみ）とする。簡便さのために学会分類2013（食事）早見表および、学会分類2013（とろみ）早見表を作ったが、解説文を熟読した上で活用していただくことを目的としている。

なお、学会分類2013でも嚥下調整食学会基準案2012に引き続き、従来流布している、嚥下障害食といわれる用語を、「障害」という語を用いず、嚥下機能障害に配慮して調整した（ととのえた・用意した・手を加えた）意味で、嚥下調整食という名称を採用している。

この用語に関してはこれまでの報告で異論は出ておらず、学会の共通認識になりつつある。

2. 作成の目的

本邦においては従来、米国の National Dysphagia Diet (2002)¹⁾のような統一された嚥下調整食の段階が存在せず、地域や施設毎に多くの名称や段階が混在している。急性期病院から回復期病院、あるいは病院から施設・在宅およびその逆などの連携が普及している今日、統一基準や統一名称がないことは摂食・嚥下障害者および関係者の不利益となっている。そこで、この学会分類2013は、国内の病院・施設・在宅医療および福祉関係者が共通して使用できることを目的とし、食事（嚥下調整食）およびとろみについて、段階分類を示した。

また、学会分類2013（食事）では、分類に嚥下調整「食」を用いている。これは基本的に食事として提供することを想定した名称である。しかし、最も難易度の低いもの（重度の機能障害にも対応するもの）（コード0）に対しては、食事場面での利用ではなく、訓練場面における導入目的であると考え、名称を嚥下訓練「食品」とした。

なお、簡便さのために早見表を示したが、表に示しきれない内容もあるので、必ず本解説を熟読の上、利用していただきたい。

学会分類2013(とろみ)早見表

	段階1 薄いとろみ 【Ⅲ-3項】	段階2 中間のとろみ 【Ⅲ-2項】	段階3 濃いとろみ 【Ⅲ-4項】
英語表記	Mildly thick	Moderately thick	Extremely thick
性状の説明 (飲んだとき)	「drink」という表現が適切 なとろみの程度 口に入れると口腔内に広がる 液体の種類・味や温度によっ ては、とろみがついていること があまり気にならない場合も ある 飲み込む際に大きな力を要し ない ストローで容易に吸うことが できる	明らかにとろみがあることを 感じ、かつ「drink」という 表現が適切なとろみの程度 口腔内での動態はゆっくりで すぐには広がらない 舌の上でまとめやすい ストローで吸うのは抵抗があ る	明らかにとろみがついてい て、まとまりが良い 送り込むのに力が必要 スプーンで「eat」という表 現が適切なとろみの程度 ストローで吸うことは困難
性状の説明 (見たとき)	スプーンを傾けるとすつと流 れおちる フォークの歯の間から素早く 流れ落ちる カップを傾け、流れ出た後 には、うっすらと跡が残る程 度の付着	スプーンを傾けるととろとろと 流れる フォークの歯の間からゆっく りと流れ落ちる カップを傾け、流れ出た後 には、全体にコーティングした ように付着	スプーンを傾けても、形状が ある程度保たれ、流れにくい フォークの歯の間から流れ でない カップを傾けても流れ出ない (ゆっくりと塊となって落ちる)
粘度 (mPa·s) 【Ⅲ-5項】	50 - 150	150 - 300	300 - 500
LST値 (mm) 【Ⅲ-6項】	36 - 43	32 - 36	30 - 32

学会分類2013は、概説・総論、学会分類2013(食事)、学会分類2013(とろみ)から成り、それぞれの分類には早見表を作成した。

本表は学会分類2013(とろみ)の早見表です。本表を使用するにあたっては必ず「嚥下調整食学会分類2013」の本文をお読みください。

なお、本表中の【 】表示は、本文中の該当箇所を指します。

粘度: コーンプレート型回転粘度計を用い、測定温度20℃、ずり速度50sec⁻¹における1分後の粘度測定結果。
【Ⅲ-5項】

LST値: ラインスプレッドテスト用プラスチック測定板を用いて直径30mmの金属製リングに試料を20ml注入し30秒後にリングを持ち上げ、30秒後に試料の広がり距離を6点測定し、その平均値をLST値とする。【Ⅲ-6項】

注1. LST値と粘度は完全には相関しない。そのため、特に境界値付近においては注意が必要である。

注2. ニュートン流体ではLST値が高く出る傾向があるため注意が必要である。

医療事業部中四国リーダー研修会報告書

日 時 平成25年8月18日(日)11:00～15:30

場 所 サンポートホール高松

出席者 鳥取：持田、井戸垣 島根：引野、端本、安食 岡山：坂本、市川
広島：木村 山口：有富、田尾、河村 香川：黒川、赤松、西浦、石井
徳島：古田、三原、佐藤 高知：新谷、伊與木 愛媛：藤井、利光、小笠原

11:00～12:00

- ・香川県栄養士会長挨拶
- ・各県自己紹介
- ・委員会報告

報告事項

- 第2回定時総会、第1回諮問会議、5月・7月度理事会報告について

カナダ栄養士会ITを使った栄養指導PENについて。

「栄養士・管理栄養士のありかたについて」のスライドを小松会長が作成中。

- チーム医療推進協議会委員会報告

協議会としての要望書を国に提出していく。チーム医療検討方策ワーキング継続する。

- 栄養管理実施加算包括化対応について

保団連から要望があり、栄養士会幹部と懇談。今後も話し合いを継続していく。

- 卒後教育検討会報告について

平成26年度から生涯学習が大きく変わる。継続的な卒後教育を生涯学習に組み込んだ内容になる。26年度からの5年間で新制度を軌道に乗せる計画であるが、実際問題として、カリキュラム作成や講師の選定、予算の確保等、本当に実施できるのか、各県の生涯学習担当者会議主導で検討していく。医療事業部では、インターンシップ導入を計画している。

- 各ワーキンググループ（専門委員会）の報告について

病棟業務実態調査進捗・嚥下調整食に関する調査について、現在集計中。

次回平成27年度実施予定の「実態調査」は、本部への用紙提出前に、各施設記入状況の確認を各県の医療事業部にお願いする方向。

全国からのメッセージ（ホームページ）更新について未更新の県は、8月末までに作成し、日本栄養士会事務所に提出すること。

医療事業部しおりの未送付分を送るので、各県で扱いを判断してほしい。

「慢性腎臓病の生活・食事指導マニュアル」を医療事業部しおりとして送付する。

さらなる内容充実を目指して、内容に関しての意見や要望を集約していく。

- 第27回臨床栄養学術セミナーについて
- 日本栄養士会雑誌執筆内容・地区リーダー育成研修会開催予定について
- 平成26年度診療報酬改定について
 - 病棟業務加算に関する事項・栄養指導食種拡大・特別食拡大に関する事項・栄養ケアステーション診療体制構築に関する事項で要望する。
- 医療分野における管理栄養士のビジョン（案）について意見募集する。
- 第33回食事療法学会について・スキルアップセミナーについて
- 第34回食事療法学会は平成27年3月に宮城県で開催予定。
- NHK で栄養に関する番組制作の企画がある。協力希望施設は手挙げを。

12:00～13:00

- ・ランチョンセミナー

「高齢者の栄養管理とあいと」イーエヌ大塚製薬株式会社 上坂英二氏

13:00～15:30

- ・統一議題について（PPT 参照）

- 生涯学習制度の改革について

岡山県から「生涯教育体系の構築について」状況説明。福岡の状況を藤井委員が説明。各県から不安・疑問などの意見が多数あったが、将来の栄養士のためにも頑張っていくと締めくくられた。

- CKD マニュアルについて

内容を検討し、意見を出していくことで了承。

- 有床クリニック対応研修会展開状況

実施状況は各県で異なった。

実際の賃金の実状の例などが報告された。

- 平成26年度栄養部門実態調査について

記入漏れなどのチェックは行うことで了承される。

チェックに時間を要するので余裕のある日程を立てていただきたい。

各県でチェックが入ることを周知していただきたい。

次回 3月22・23日 広島開催 広島文化交流会館

（議事録作成 香川県担当者）

平成 25 年度保健指導者研修会（西会場）に参加して

（標準的な健診・保健指導プログラム [改訂版] による）

（医）専心会 西条市立周桑病院 日野恵子

- ・期間 平成 25 年 8 月 31 日(土)、9 月 1 日(日)、 21 日(土)、22 日(日)
- ・会場 中国学園大学（岡山市北区庭瀬 83 番地）

平成 19 年度に標準的健診、保健指導プログラム（確定版）が提示され、内臓脂肪型肥満に着目した、特定健診・特定保健指導が平成 20 年 4 月から行われている。

愛媛県栄養士会においても、平成 19・20 年度に研修会が行われ、研修を修了された方も多し。私もその研修を受けたが、実際に保健指導に携わることなく、当院は保健師さんが中心に保健指導を行っています。保健指導に管理栄養士の参画を検討する話があった時に、今回の研修会が「日本栄養士会雑誌」の中で、目に留まり参加となりました。

今回の研修会の参加人数は 50 名足らずの人数でした。参加者は実際に保健指導されている方は少なく、初めて研修に参加の方が多し状況でした。

平成 25 年 4 月に提示された標準的な健診・保健指導プログラム [改訂版] は「健康日本 21（第二次）」の展開を含めて行われています。

標準的な健診・保健指導プログラム [改訂版] の注目事項

1、健診の標準化

検査項目、判定基準の標準化により保健指導の対象者を客観的に絞り込むことができる
健診データの電子的提出様式を標準化

2、保健指導の標準化

階層化基準の標準化により保健指導の対象者に優先順位をつけることができる
アウトソーシング基準により高い実施体制を確保
保健指導データの電子的提出様式の標準化

3、データ分析・評価の標準化

保健指導の成果を客観的に評価できる
（健診データの改善、リスクの減少、該当者・予備群の減少等）

保健師・管理栄養士等の仕事を客観的に評価することができる

研修内容において、前回と違ったことは実際に特定保健指導している管理栄養士の方が講義されますので、実践的な話が多く参考になり、またスキルを高めることを痛感しました。

【印象に残った言葉】「求められる納得できる説明」「保健指導専門職は究極の営業マン 単に専門知識を売るのでなく→その人（受診者）の将来の人生を売っている」

さらに、ロールプレイにおいて、岡山 S P（模擬患者）研究会の方が受診者になってくださり、指導を行った方へのフィードバックをして頂きました。S P の方も研修を受けられた方で、管理栄養士さんの指導における個人の特性を気づかせるようなフィードバックをしてくださり、貴重な体験ができました。

紹介された関連の教材や書籍

厚生労働省ホームページ「標準的な健診・保健指導プログラム [改訂版]」

保健指導における学習教材集

日本健康教育学会 <http://nkkkg.eiyo.ac.jp> 役立つ教材紹介

「栄養ケアプロセス用語マニュアル」監訳（公社）日本栄養士会 第 1 出版

「よりよき医療コミュニケーションを求めて—模擬患者を通して見えてきたもの—」

ライフサイエンス出版

研 修 会 案 内



1. 第 18 回愛媛NST研究会

日 時：平成 25 年 12 月 14 日（土）14:00～17:30

会 場：全日空ホテル ダイヤモンドホール

特別講演『がんの栄養管理—食支援・味覚障害を中心に』

演 者：桑原 節子先生（淑徳大学 看護栄養学部 栄養学科 教授）

特別講演『高齢者の栄養管理～サルコペニア対策を中心に～』

演 者：大村 健二先生（医療法人社団愛友会上尾中央総合病院 栄養管理センター長）

2. 第 5 回病態栄養を学ぶ会

日 時：平成 25 年 12 月 14 日（土）11:00～13:00

会 場：全日空ホテル ルビールーム

3. 第 6 回日本静脈経腸栄養学会中国支部学術集会

日 時：平成 25 年 12 月 14 日（土）～15 日（日）

会 場：岡山大学 J ホール（大学病院敷地内）

特別講演「地域急性期病院におけるアウトカムの出る NST 管理栄養士は患者を診よう-」

演 者：近森 正幸先生（社会医療法人近森会 近森病院 院長・NST Chairman）

4. 第 17 回日本病態栄養学会年次学術集会

日 時：平成 26 年 1 月 11 日（土）～ 12 日（日）

会 場：大阪国際会議場

テーマ：病態栄養学の進歩と未来

5. 第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

日 時：平成 26 年 2 月 27 日（木）～ 28 日（金）

会 場：パシフィコ横浜

テーマ：志学創新

6. 食事療法学会

日 時：平成 26 年 3 月 8 日（土）～9 日（日）

会 場：長崎ブリックホール

テーマ：西洋医学発祥の地 長崎から～栄養士が発信する食とこころ～

【編集後記】

役員も替わり、ホームページでの「やまびこ」に戸惑いながら、編集担当をさせていただきました。今回の「やまびこ」に掲載のように、来年度は卒後教育の変更、診療報酬改定と変更になることが多くなる折、昨年のようなノロウイルスが猛威を振るわないことを願うばかりです。

今後もタイムリーな「やまびこ」を情報発信していきますので、ご意見や県外での研修会参加において参考になる情報がございましたら、担当者までご連絡下さい。

新しい年の皆様のご健勝を心よりお祈りいたします。

日野 恵子

[編 集 責 任 者] 愛媛県立今治病院

藤原 眞紀子

[編 集 担 当] 医療法人専心会西条市立周桑病院

日野 恵子

医療法人団伸会奥島病院

石田 美津子

国立病院機構愛媛医療センター

永井 美保

(E-mail mnagai@ehime-nh.go.jp)